

## 目 標

造林作業の省力化に資する情報発信と民有林が抱える課題の把握

### 現状と問題

当支署管内においては国有林はもとより管轄する民有林についても若齢級林分は少なく間伐期から主伐期に移行しつつある。こうした林齢構成に偏りのある現状から主伐再造林を必要とする箇所が増えてくることが想定され、林業就労者が減少している現状において、造林作業の省力化が求められている。

### 課題

造林作業の省力化と効率化について。

### これまでの取組

造林作業の省力化と効率化の促進に向けて、令和4年度に「苗間の設定（1.1～2.8m）」や「コンテナ苗と裸苗」などの違いを持たせたプロット設定を行っている低密度植栽試験地での成長量調査・下刈り作業の功程調査を実施してきた。

### 取組内容

#### 【造林作業の大型機械の導入による現地検討会】

令和7年度の地拵作業箇所（製品生産事業との一括発注）でラジコン式大型機械を導入した事例がある事業者の協力を得ながら、北見地区管内の事業者や地元滝上町の森林組合、北見地区管内の森林管理署職員など約60名規模での現地検討会を開催した。管内の事業者を中心に大型機械での作業を見てもらい、

性能および操作性を確認することで大型機械化の普及へ繋げていく取組となった。参加者からは「機械のメンテナンス」「地拵え作業以外の使い道」といった機械導入への前向きな質問が出ていた。



ラジコン式大型機械の現地検討会

#### 【低密度植栽試験地での成長量調査等の実施】

令和4年度から成長量調査および下刈り作業の功程調査を実施している箇所について調査を進めている。成長量調査については、まだデータが少なく大きな違いが見られないが功程調査においては植栽密度の低い箇所（苗間を長く設定している箇所）で作業功程が優位となる調査結果が出ている。

### 今年度の総括 次年度の予定

造林作業については地拵え作業だけではなく、可能な限り下刈り作業なども大型機械での実施を目指していく。  
成長量調査については新たに調査をはじめた箇所も加わっており、引き続きデータを蓄積する中で詳細な分析を行っていく。功程調査については下刈り作業を実際に行っている事業者からの意見も聞きつつ造林作業の省力化と効率化に向けて調査・分析を継続していく。

### 結果・成果

今回の検討会実施箇所は当初から大型機械での地拵えを見込んでおり、当支署管内でも林地傾斜が比較的緩い箇所ではあったが、場所によっては急傾斜地もあり、そこでの作業も可能であった。

ラジコン式による遠隔操作であることから安全上も問題なく作業を進めることが出来た。

基本的には一人で操作が可能であり従来の人力作業と比較しても人手はかからず体力的にも軽減されている。

地拵え時に伐根処理をすることで下刈り作業の省力化・効率化も可能となる。



ラジコン式大型機械の稼働の様子